



敬愛

甲斐市立敷島中学校
学校だより 第 3号
平成30年 5月25日
発行 長田 靖

体験から学んだことをこれからに生かしましょう！

1・2年生の校外学習が無事に終了

1年生にとっては初めての校外行事となる宿泊学習が5月9日（水）～10日（木）に、また2年生の山梨探訪が5月10日（木）に行われました。

この2日間は全国的に大気の状態が不安定で、突然の雨や、この時期とは思えない冷たい風が吹いたり、厳しい気象条件でした。そんな中でも、1・2年生ともに、それぞれ事前に学んだことを生かして行事を成功させました。

1年生は富士北麓を訪れ、1日目はフィールドワークや飯ごう炊さんなどの野外活動を行いました。夜は体育の授業で学んだ集団行動を学級ごとに発表したり、長縄を競い合ったりしました。2日目は、宿舎に隣接したコースを使ってのアドベンチャープログラムにチャレンジしました。

入学して1か月、準備にかけられる時間は決して十分ではありませんでしたが、生徒も職員も本当によく努力したと思います。生徒たちはこの行事を通して、協力することの大切さと楽しさを学び、新しい仲間と親睦を深めることができたようです。



2年生の山梨探訪は、「ふるさと山梨について学び、緑学年の進化へとつなげよう！」の目標のもと、3～5人で編制された47グループが、自然や歴史、産業といったテーマに応じた見学コースを作って見学に臨みました。また、各係が決めた約束に則り、公共のマナーにも配慮しながら自主見学を行いました。

1年生から取り組んできた事前学習の成果をもとに、見学や様々な体験活動を行い、それぞれの地域の良さを発見できたようです。また、中堅学年としての自覚を感じさせる行動がたくさんできたと報告されました。



アドベンチャープログラムの様子



清泉寮でのハイライド体験

勉強してもなかなか覚えられない！

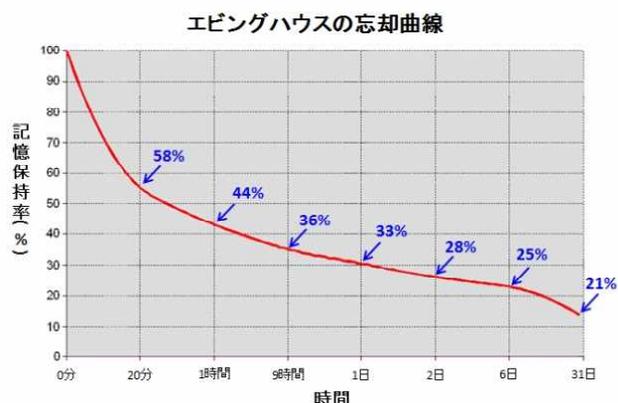
中間テストの答案が返却されたことと思いますが、見直し（やり直し）はしましたか？テスト対策が上手くいかなかったという人は、どこが良くなかったのかをよく反省して、また成果が出せた人も油断しないで、次回に備えてほしいと思います。

さて、今日はタイトルにあるように、多くの人が経験している「勉強してもなかなか覚えられない」ということについてお話しします。

ドイツの心理学者エビングハウス（1850～1902）は、時間と共にどれだけ記憶したことが頭に残っているかを研究し、グラフに表しました。これが有名なエビングハウスの「忘却曲線」です。

人は何かを学んだ時、

- 20分後には42%忘れる。
- 1時間後には56%忘れる。
- 9時間後には64%忘れる。
- 1日後には67%忘れる。
- 2日後には72%忘れる。
- 6日後には75%忘れる。
- 31日後には79%忘れる。 …学んだ直後から「忘れ」は始まり、最初は一気に忘れ、次第にゆっくりと忘れていくということがグラフから読み取れます。



この理論をもとに、どのように勉強したら学習効率が上がるかを海外の大学が研究しました。それによりますと、

- ① 学習した後24時間以内に、短時間でも復習をすることで記憶率は100%に戻る。
- ② 一度目の学習より二度目以降の学習の方が簡単になる。復習を重ねるごとに忘れにくくなる。

とのこと。その日のうちに授業で学んだことを復習（家庭学習）したり、それを習慣化することが大切だと言えそうです。

一方、例をあげるなら「水泳」とか「自転車の乗り方」のように、覚えるだけでは身につかない知識・技能があります。みなさんがこれを身に付けるにはどうしたかという、おそらく一定の期間、毎日集中して練習に取り組んだはず。するとある日（時）突然、泳げるようになったり、転ばずに進めるようになったりしたのではないですか。

それから、一実はこれが最も重要だと思うのですが、何かを学ぶ時、その知識が自分にとって意味のあるものや重要なものである場合、無意識のうちに覚えてしまうという経験は誰にもあるはず。逆に、その内容に意味（興味や関心）を感じられない場合は、覚えようとするのが苦痛になり、覚えてもすぐに忘れてしまう…。

つまり、興味や関心を持って学習（授業）に向かうことが肝心なのです。もちろん、これは皆さんの努力だけではなく、教える側の工夫や精進も当然なくてはなりません。

少し話が拡がりすぎました。

紹介した記憶の方法ですが、水泳や自転車と同じで、知っているだけではまったく意味がありません。テスト勉強だけでなく、普段の家庭学習で実践してください。なお、いわゆる「一夜漬け」は睡眠不足も相まって、テスト後の忘却が激しく、結果的に効率の悪い学習になると言われています。お勧めできません(ー)